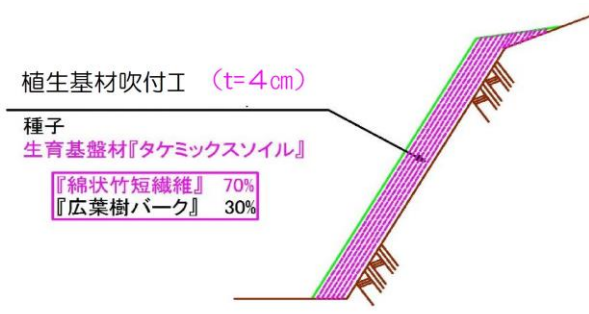


新技術・新工法

登録番号	19035	 <p>植生基材吹付工 (t=4cm)</p> <p>種子 生育基盤材『タケミックスソイル』</p> <p>『綿状竹短繊維』 70% 『広葉樹バーク』 30%</p> <p>『タケミックスソイル緑化工法』 適用範囲：吹付厚さ t=3-10cm 法面勾配 1：0.5より緩斜面 法高 法面垂直高さ80m以下</p>
新技術名	タケミックスソイル緑化工法	
副題	竹繊維植生基材吹付工	
従来技術名	植生基材吹付工	
活用区分	—	
新技術等の区分	工法	
新技術等の分野	工程、品質・出来形、経済性、安全性、施工性、耐久性、環境、県産資材活用	
NETIS番号	QS-190039-A	
問い合わせ先	株式会社濱田工業 096-329-3322	

概要	<p>・ラス張工、接合剤を使用せず、『綿状生竹繊維』により造成された緑化基盤により、降雨、凍結、干ばつに対する耐久性を高め、自然環境の変化に順応することで、永続的な緑化基盤が維持される法面緑化工法。</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ラス張工を使用しないことで吹付緑化基盤の密度が均一化され、浸食耐久性が向上した。 ・接合剤を使用しないことと、『綿状生竹繊維』70%としたことで、乾燥後の降雨、および凍結融解時に、竹繊維の“しなやか”な特性により緑化基盤が復元する。 ・単位体積重量が軽量となり、竹繊維の噛み合わせにより厚付け可能で、ダレが少なくなる。 ・接合剤による種子の固定が無く、種子が自由に動くため、発芽速度が速くなる。 ・従来型の吹付施工2年経過後の緑化基盤厚さは、浸食劣化により、5cmから4cmへ減少するが、新技術では、浸食率が極めて小さいことから吹付厚4cm施工では、2年経過後も、4cmの層厚を維持することが、降雨浸食試験により実証されたことで、当初施工時に設計層厚を低減することが可能となり、経済性が向上する。
適用可能な箇所	<p>降雨、積雪、法面凍結時は吹付作業は避ける。 吹付機、資材の搬入が4t車以上で可能である事。 吹付プラントヤードに3m×20m程度が必要。法面勾配1：0.5より緩勾配 施工厚さ t=3~10cm 法高：垂直高さ80m以下</p>
施工単位等	<p>新技術 4,430円 (吹付厚t=4cm)</p> <p>従来技術 4,680円 (吹付厚t=5cm)</p>